

●モノグラフ
小学生ナウ
Vol. 6-12

子どもの放課後

目次

要約	2
はじめに	6
1. 昨日の放課後を追って	8
●学校から家まで	8
●友だち遊びを追って	10
●その他にしたこと	16
2. 子どもの放課後	21
●サンプルとなった子どもたち	21
●ギャング・エイジについて	23
●仲よしグループについて	23
●テレビとファミコン	32
●勉強との関わり	34
シリーズ/講座・子ども調査入門 ③ 国際比較調査への試み	深谷昌志 38
資料1 調査票見本	42
資料2 学年・性別集計表	51

調査レポート／子どもの放課後

要約



①調査の目的

小学校高学年は、かつて発達心理学者によってギャング・エイジと名づけられたほど、仲間遊びの活発化した時期であった。それが現在影をひそめたかに思えるのは、どうしたことだろう。そうした視点から、子どもの放課後の生活を追ってみることにした。



②昨日の放課後、家に帰って

7月と9月のある日（月～金曜）、学校から子どもたちはほとんどまっすぐ家に帰った（図2）。家に着いて、まずはじめに「外へ遊びに出た子」は34%、すぐ宿題や勉強をした子が15%、すぐ塾やおけいごごとに行った子が13%、すぐテレビを見た子が11%であった（図4）。



③友だちとの遊び

昨日の放課後、友だちと遊んだ子は54%（男子63%、女子45%）、学年別では4年生は68%と多いが、5、6年生はずっとへっている（図5）。

東京学芸大学助教授 深谷和子

調査協力者

東京学芸大学 桑江美樹
高橋千穂
村田まみ

④天候との関わり

子どもが友人と遊んだか（外へ遊びに行ったか）と天候とは、ほとんど関係がない。遊ぶ気持ちと時間があれば、子どもは天候などにめげていないのだろう（表2、図7）。



⑤遊んだ人数

2人から3～4人（本人も入れて）で遊んだ子が8割と、遊びの小型化が見い出される。とくに女子にその傾向が強い（図8）。



⑥友だちとの遊びの内容

おしゃべり（1位）、ファミコン（2位）、マンガや本と一緒に読む（4位）、買い物に行く（5位）、一緒にテレビを見る（6位）、ゲームをする（7位）と、子どもの遊びの室内化や貧弱化が気になる（図10）。



調査レポート／子どもの放課後

要 約



⑦遊んだ場所

友人の家（1位）、家の周囲（2位）、自分の家（3位）が主で、遠出して広い空間で遊んだ子は少ない（図11、図12）。



⑧ファミコンについて

当日ファミコンをした子は28%だったが、たいていの子（77%）は友人やきょうだいとしていて、1人でした子は少ない（図16）。



⑨自己像

自分は「友だちと遊ぶのが好きで、友だちの数も多く、スポーツ好き」ととらえられているが、勉強は、むしろ苦手とする者が得意とする者より多く、かつ学年と共にふえていく傾向にある（図19）。

調査概要

- 1.調査主題 子どもの放課後
- 2.調査視点 子どもたちの友人関係が、昔と比べてかなりの変化を見せているようだ。子どもの、地域での活動を含めて、最近の子どもたちの放課後の実態を調べる。
- 3.調査項目 学校から帰る時何かしたか／放課後友だちと遊んだか／お手伝いしたか／塾とおけいこについて／ふだんの勉強について／テレビについて

⑩ 仲よしグループ

いつも一緒に遊ぶ仲よしグループを持つ子は全体の70%。人数は2人から4人（本人を含めて）が6割を超える（図20、表4）。



⑪ 仲よしグループの特徴

グループ名がある9%、合い言葉や暗号がある7%、秘密の遊び場がある15%、きまりがある7%、おそろいの持ちものがある26%と、一応もってもらしいが、全体のグループのうち、発達心理で言う「ギャング」らしいグループは、2～3割ではないかと推定される（図23）。



⑫ 勉強量の増大

子どもの8割は塾やおけいこに通っており、週に半分以上通う子も、3割いる。学校ではよく宿題が出るし、塾でも出るところがある。塾があっても家庭学習量をへらさない子もあり、こんな年齢のうちからこんなに課題に拘束された日々を送っていて、果たして健康な心や体と十分な人格形成ができるのか、いささか心配になる（図29～図34、表6）。



7. サンプル数

(人)

学年/性	男子	女子	計
4年	280	246	526
5年	274	270	544
6年	340	297	637
計	894	813	1,707

て/仲よしグループについて

4. 調査時期 1986年7月～9月
5. 調査対象 東京、千葉の小学4、5、6年生
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査



はじめに

この調査のテーマは、大学での筆者のゼミの席上で、ギャング・エイジの問題をとり扱った際に生まれてきたものである。子どもたちの友人関係が、昔と比べてかなりのさま変わりを見せていることについての討議がくり返される中で、子どものギャングの土壌であるはずの地域での活動を含めて、最近の子どもたちの放課後の生活を把握する必要があると感じたことで調査票作りが行われ、データが収集された。この号が読者のお手元に届く頃には、3人の学生の人びとも、それぞれ教職をはじめとする新しい職場のフレッシュ（フレッシュ・マン）として社会的活躍への第一歩を踏み出しているであろうが、今現在は学生の身分なので、社会的慣例に従って、協同研究

者でなく、調査協力者という名称を使わせていただいたことをお断りしておく。

このように、子どもたちの放課後の生活実態を把握するために作られた本調査の質問項目の内容は、2つに大きく分けられる。

第1章は、「昨日」の放課後の過ごし方を聞きとった部分である。ご承知のように、アンケート調査で子どもたちに「ふだんのようす」を回答させるには、自分の状態をかなりの程度客観的に把握し、サンプル全体の中に位置づける能力が要求される。たとえば「あなたは、スポーツが得意ですか」とたずねられた時にも、スポーツの種類ごとに自分の能力を友人のそれと比較し、さらにこれらを総

表1 調査対象日(昨日)

61年7月と9月

月	11.2%
火	9.4%
水	30.1%
木	24.2%
金	25.1%

合して、「わりととくい」とか「あまりとくいでない」という選択肢の1つが選ばれるのである。だから、小さい子どもたちの場合（3年生もしくは2年生以前）には、あまり精度の高いデータが収集できないことが経験される。

従って時には、できるだけ主観や計算的処理が入ることを防ぐために、ある特定の対象に限定して子どもの回答を引き出すほうが、平均を求めるよりもより精度の高いデータが得られるように思われる。

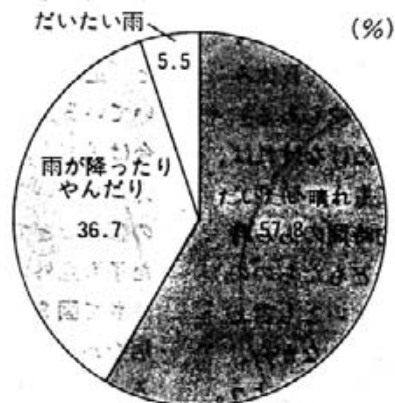
この調査のデータの第1章はそのように、「昨日」を対象を限定して、子どもの放課後を追っている。調査が行われたのは、61年7月と9月。調査校の担任の方がたには、でき

るだけ「月曜でない日で、前日が雨でない日」とお願いしておいた(表1、図1)。

しかしそれがいかに実態を忠実に写し出したデータであっても、やはり特定の1日のデータでしかないことの限界を補うために、第2章は「ふだんの日」のようすについてたずねている。もしデータの収集がうまくいっていれば、両者がお互いの不足な分をカバーし合っているはずである。

前置きが長くなったが、そうした手続きに従って、さっそく子どもたちの放課後を追ってみることにしよう。

図1 対象日の天候



1. 昨日の放課後を追って



学校から家まで

すでにふれたように、調査は61年7月7日から16日までと、夏休みをはさんで9月3日から19日の間に行われた。調査は千葉県の東京に近接する2つの市の小学校と東京の東村山市の小学校の4、5、6年生、1707名(男子894名、女子813名)であった。この時期は(夏休み前でそろそろ短縮授業に入った学校もある)日も長く、子どもが暑さにさえめげなければ、一年中で一番遊びが活発化してもよい時期であるし、また受験等にも比較的時間のある時期なので、マキシマムに近い子どもたちのびやかな放課後の生活があってよいとも言えそう。そうしたことを念頭に置きながら、以下のデータを読み進めていくことにしよう。

なお当日の曜日は表1、天候は図1に示した通りであった。

まず、その日学校が終わってから、子ども

たちはどのように家へ帰ったか。図2に示したように、全体の9割が、いわゆるより道をしないで帰宅している。昔の子どもはよく「道草しないでまっすぐ家に帰るように」と先生から注意されたものだが、この図を見ていると「道草をしないで」という語が死語に近づいているようすが、実感としてわかってくる。今は子どもに道草をする時間もスペースも与えられていないのかもしれない。また、時間の都合などで、遠方の塾へストリートに行った子も意外に少なかったことがわかる。

さて図3は、その日家に帰った時に、誰も居なかった子の割合だ。カギっ子と言うのだろうか、誰も居ない家へ帰った子は24%、また子どもの成長につれてパートやその他で家をあける母親がふえていくと言われるが、その日帰宅した時に母親が居なかった子は35%

であった。

さてこの日、家に帰って子どもたちは、まずはじめに何をしたか。図4によると、一番多かったのは「すぐ外へ遊びに行った子」で全体の3分の1。夏のまっ盛りだったことにもよろうが、遊ばなくなったと言われている現代っ子にしては、なかなかの数字である。しかし逆に見れば、3分の2は、まず「テレビを見た、塾などに行った、勉強した」のだから、やはり子どもに外遊びの意欲が失われた、子どもに元気がなくなった、と言ってよい数字かもしれない。

なお「すぐ遊びに行った子」は男子で42%、女子で26%と大差があり、女子のこうした傾向はいささか気になるところである。そのかわり女子は、すぐ宿題をしたり塾やおけいこごとに行っている。女子のまじめさの表れというべきか。

図2 学校からの帰り方

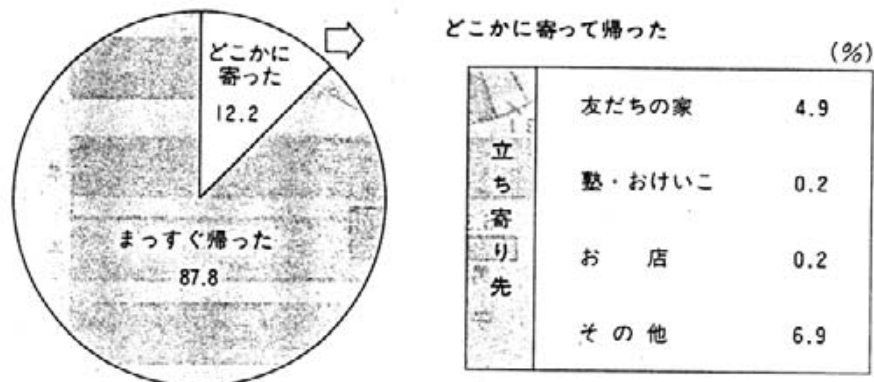


図3 家に着いた時誰もいなかった子(カギっ子)

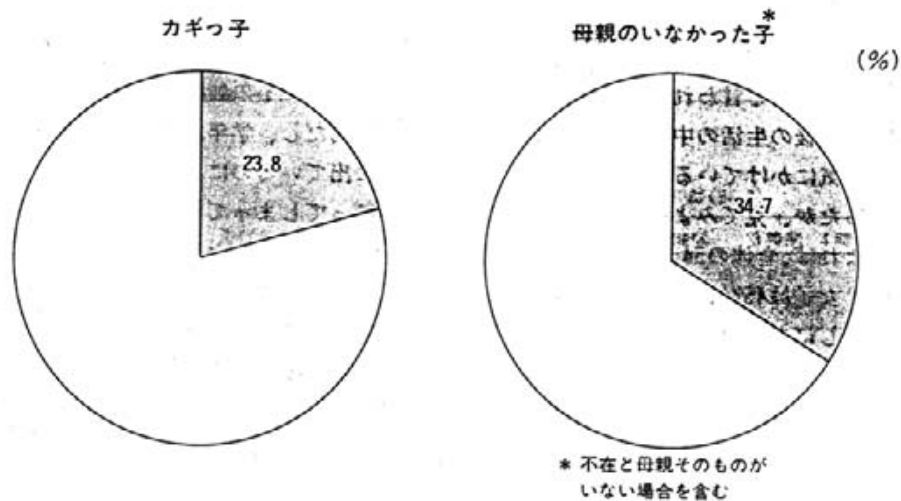
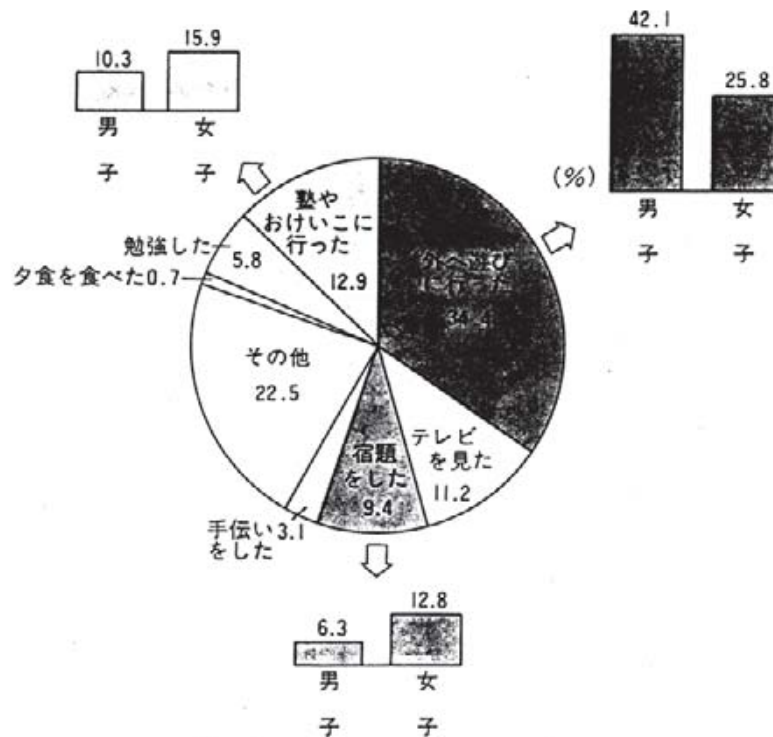


図4 帰宅後すぐにしたこと



友だち遊びを追って

遊びが失われたと言われている最近の子もたちの放課後の生活の中でも、いちばんおとなたちが気にかけている「友だちとの遊び」はどうだったか、見てみよう。

図5によれば、全体の54%が「遊んだ」（男子の63%、女子は45%）と答えている。しかし、くり返しになるが、7月と9月、夏休み直前と直後という子どもの遊びがいちばん活発化してよい時期に、半分近くの子は全く友だちと遊ばなかった。かつてだったら考えられなかった数字ではないだろうか。

性別で女子の数字が低いのは図4と一致する傾向だし、学年別では、4年が7割近く遊びに出ているのに、それが5、6年では5割を割ってしまっている。この傾向が6年という進学をひかえた時期ならまだしも、5年からというのは、受験戦争の影響だろうか。気にかかる数字である。

次に図6は、友だちと遊んだ時間である。遊んだ子54%についての内訳は図の上のようになるが、遊ばなかった子を加えて計算してみると、図の下のようなになる。遊ばない子

も多いが、遊んだ子はけっこう長時間遊んでいるようすが見られる。つまり、いったん友だちと遊んでしまうと、おもしろくて、15分とか30分ではすまなくて、1時間2時間と長くなってしまふものらしい。子どもたちが遊

ばなくなったと嘆いていずに、おとなのほうでもっと「友だち遊び」を動機づける企てが必要なのではなかろうか。

なお表2と図7は、念のため天候との関わりを見たものである。はじめに見たように、

図5 帰宅後、友だちと遊んだか

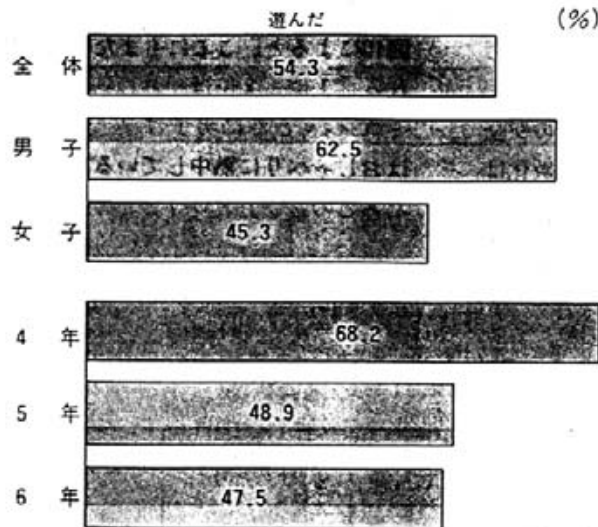
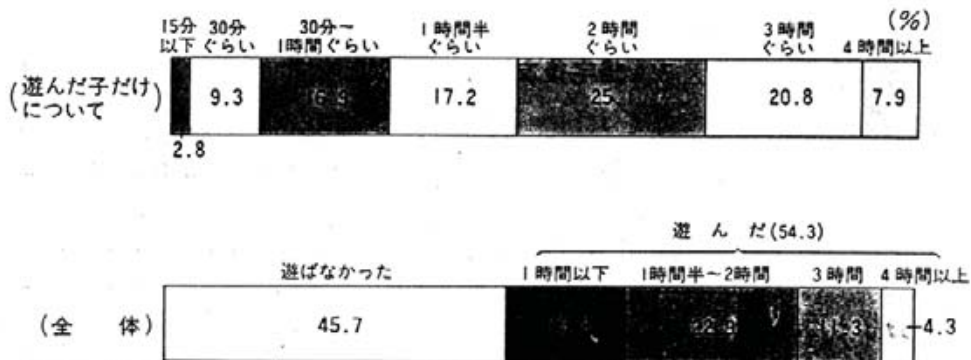


図6 友人と遊んだ時間



当日雨だった地域が6%、少し雨が降った地域が37%あった。こうした当日の天候で大きく子どもの遊びの状況が左右されるようだったら、全体のデータを、晴天だった地域のみについて集計し直す必要が出てくるのだが、結果は図7と表2のように、差はわずかである。雨で外出をちゅうちょするのはおとなであって、雨が降ろうが槍が降ろうが、遊びたければ遊びに行くのが、子どもというものなのだろう。

さて元に戻って、当日何人の友だちと遊んだかを見たのが図8である。

自分を含めて2人、3～4人というのが全体の8割近く。やはり遊び集団の少人数化は確かである。とくに女子のほうにその傾向が

大で、女子の4割は2人遊びである。これでは集団遊びというより1人遊びの変型にすぎないとも言えそうで、困ったことである。

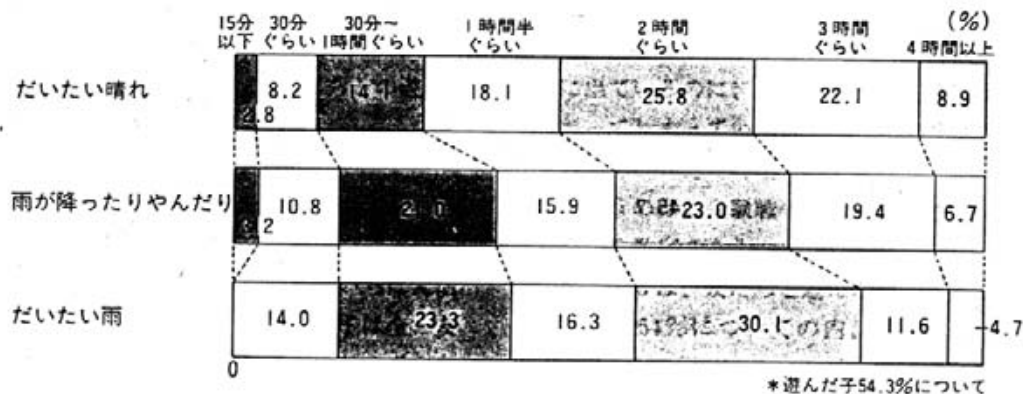
次に図9は、遊んだ友だちの種類である。同じクラスの人とだけ遊んだ子が6割、同性だけと遊んだ子が7割、また7割が同じ学年で、9割が同じ学校の子と遊んでいる。最近遊び友だちの同質化が言われるが、それがここにもよく表れていると言えよう。

ではそうした友だちと何をして遊んだか。図10によると、ここにもまた問題が見い出される。1位と2位は「おしゃべり」と「ファミコン」。とくに男子はファミコンに、女子はおしゃべりに熱中している。これまで「友だちとの遊び」ということで、われわれは何

表2 天候と遊びの状況

遊びの状況	天 候		
	だいたい晴れ	雨が降ったりやんだり	だいたい雨
帰宅後すぐ遊びに行った子	36.8	31.0	31.1
帰宅後友だちと遊んだ子	56.2	52.4	47.7

図7 帰宅後友だちと遊んだ時間*



となく、外で子どもたちが大勢集まって、活発に遊ぶようすを思い浮かべていたのではなかろうか。しかし、「おしゃべり」と「ファミコン」、そして4位が「一緒にマンガや本を読む」、ついで「買いもの」、「テレビ」、「室

内ゲーム」とは。7月と9月の夏の盛りに、子どもたちは何でそんな過ごし方をしていたのだろう。友だち遊びと言っても、ほとんどが室内遊びか、おしゃべりや買いものなど、遊びとは言えないような貧弱な活動に費やさ

図8 何人で遊んだか

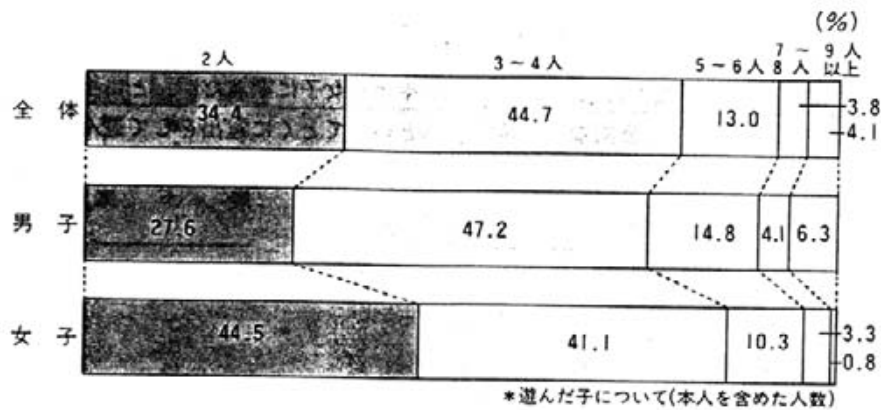
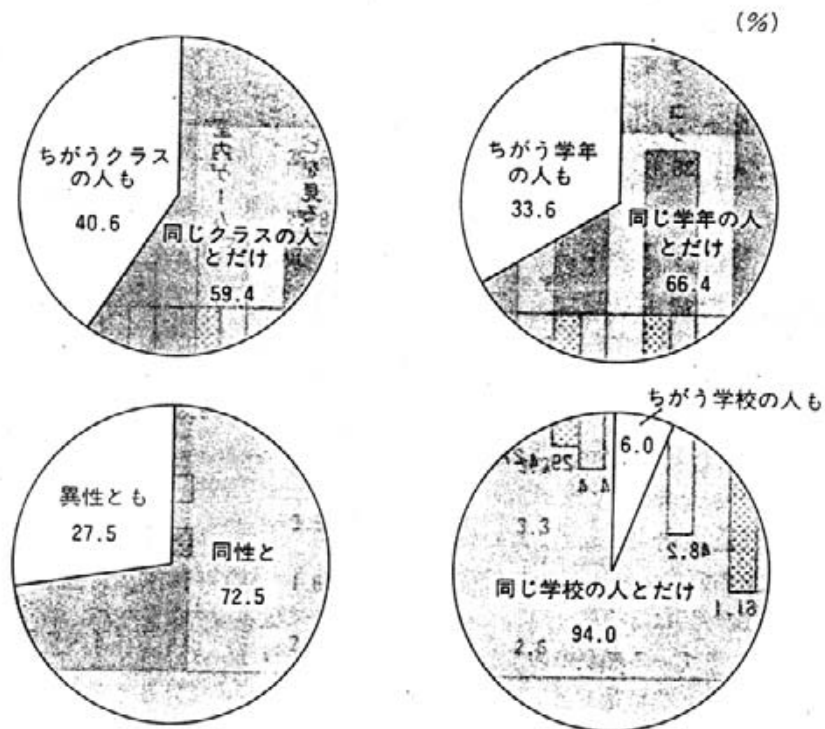


図9 遊んだ友だちの種類



れてしまっていることが嘆かわしい。3位にスポーツが上がってきてはいるものの、「かんけり」など（質問紙では、かんけり・ドロケイ・なわとび・鉄おにや高おに・ゴムとび・石けりなど）や「魚とり」など（魚とり・虫とり・花つみ・木登りなど）、また「○○ごっこ」（ままごと・人形遊び・学校ごっこなど）は、1割を切った数値で、一番最後に申しわけ程度に並んでいるに過ぎないのである。

このような遊びの貧弱化(室内化・小型化)は、次の図11にもよく表れている。昨日遊んだ場所は、ダントツに「友人の家」「自分の家」「家の周囲」であって、公園などの少し離れた広い場所では、これら3か所と比べて一段と低い数値が並んでいる。

子どもたちが家や、家の周囲から大きくは離れようとしない「巣ごもり」現象が、とくに天候との関わりで生じているのではないことは、次の表3からもうかがうことができる。当日、家や家のまわりで遊んだ子の数は多少天気の悪い日のほうが多く、逆に公園で遊んだ子は天気のよい日のほうが多くなっているが、極端に差のある数字ではない。天気のよい日をとってみても、子どもたちが巣ごもりしているかのような状況は十分に見いだされるのである。また図12によれば、この傾向はやはり女子に顕著だが、といて男子だからといてとくに遠出をして遊んでいるとは言えず、いずれにせよ、困った傾向なのである。

図10 友だちとした遊び

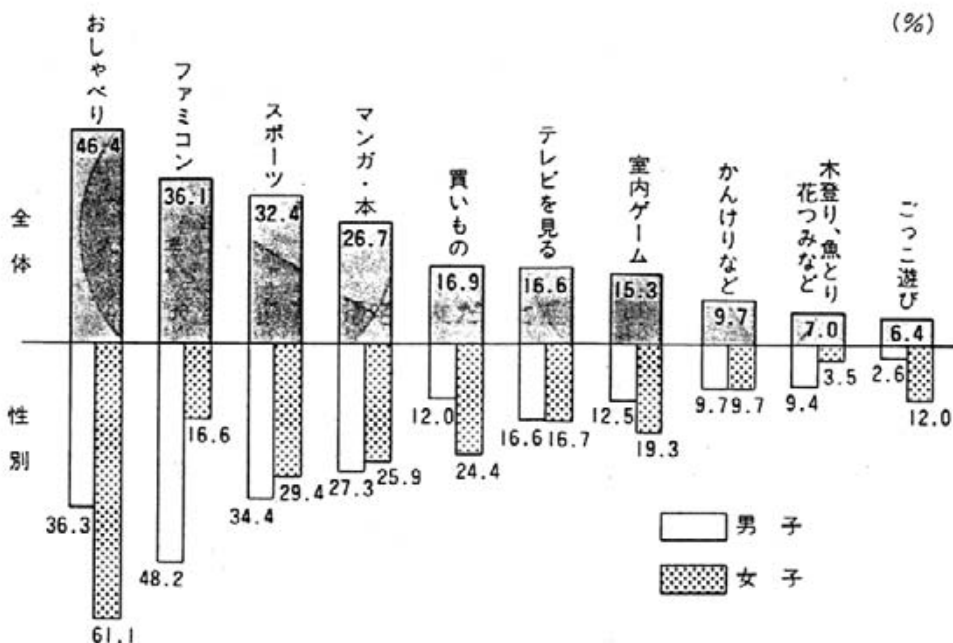


図11 遊んだ場所(全体)

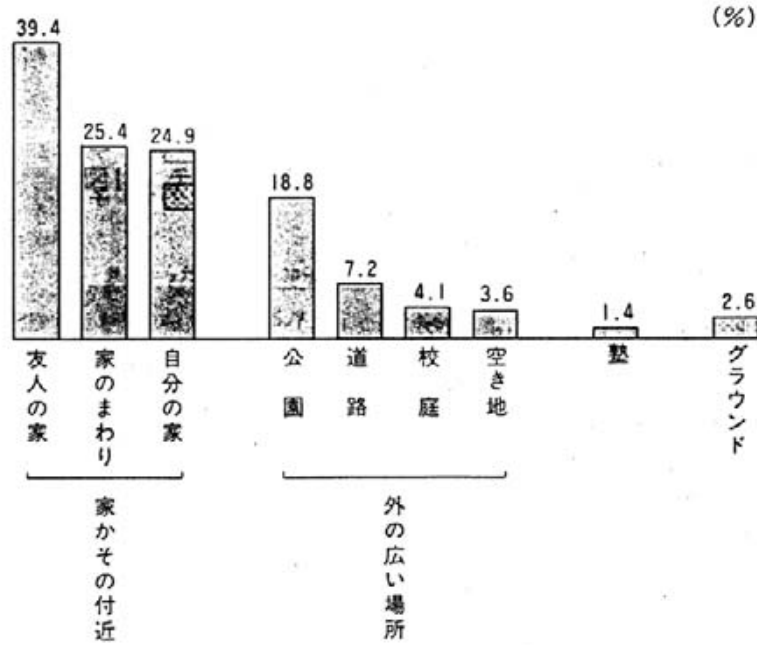
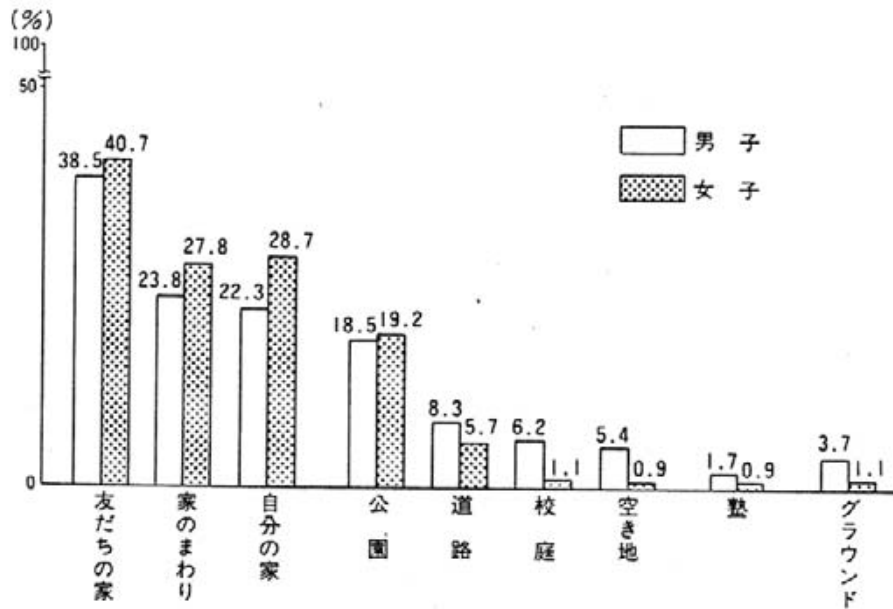


表3 天候×遊んだ場所

遊んだ場所	天候		
	だいたい晴れ	雨が降ったりやんだり	だいたい雨
友人の家	38.6	39.9	45.2
家のまわり	25.8	24.8	26.2
自分の家	22.7	26.8	38.1
公園	21.3	16.3	4.8
道路	6.4	9.5	2.4
校庭	5.0	3.3	—
空き地	3.9	3.3	—
塾	1.6	1.0	—
グラウンド	2.9	2.6	—

図12 遊んだ場所×性別



その他にしたこと

友だち遊びの貧弱さを見てきたわけだが、この点は第2章でもふれるので、その日、友だち遊び以外に子どもたちが何をしたか(図13)をざっと追ってみて、とりあえずこの部分をしめくくろう。

まず図14は、当日塾などに行ったかどうかである。関連するデータは後でも出てくるが、とりあえずこの日、子どもたちが塾へ行った子は2割、男子に多い。おけいごとへ行った子はもう少し多いが、これは逆に女子に多くなっている。

次に図15は、家庭学習のようすである。宿題の出た子は65%、30分くらいでこれを済ませた子が多い。その他自主勉強(宿題以外の勉強)をした子は57%。ほぼ宿題と同じくらいの量の自主勉強をしている感じである。図の下部には、合計の勉強時間を示している。30分から1時間の子が最も多く23%だが、そ

れより少ない子もけっこう多く、とくにこの日全く勉強をしなかった子が4人に1人という数字を見ていると、遊びが大切だということは別として、担任ならずともちょっと心配になってくる。むろん1時間半以上やった子も2割近くいて、分散が大きいのが特徴だ。この点については、後にもっとくわしく見てみることにしよう。

さて図16は、テレビやファミコン・マンガとの接触状況である。

まず、当日テレビを見た子は8割、ファミコンをした子が3割。ファミコンはとくに男子がよくやっている。しかしファミコンに関して言えば、イメージとしては子どもが1人で熱中する姿が浮かぶが、実際は少し違っていて、77%は友人やきょうだいなど、誰かと同席してやっている(ちなみにファミコンの所有率を、ハードとソフトに分けて掲げてあ

る)。また、マンガを読んだ子も半数近くいて、これに塾やおけいこ、家庭学習等が加わるのだから、放課後が子どもたちにとって、きわめて忙しい理由はよくわかる。となると、つい省略したくなるのは、わざわざ外へ出か

けて行ってしなければならない「友だち遊び」ということになるのかもしれないのである。

さて、その他の放課後の過ごし方としては、「手伝い」が考えられる。図17によれば「たくさんお手伝いをした子」はわずか7%。「少

図13 テレビ・ファミコン・マンガに費やした時間

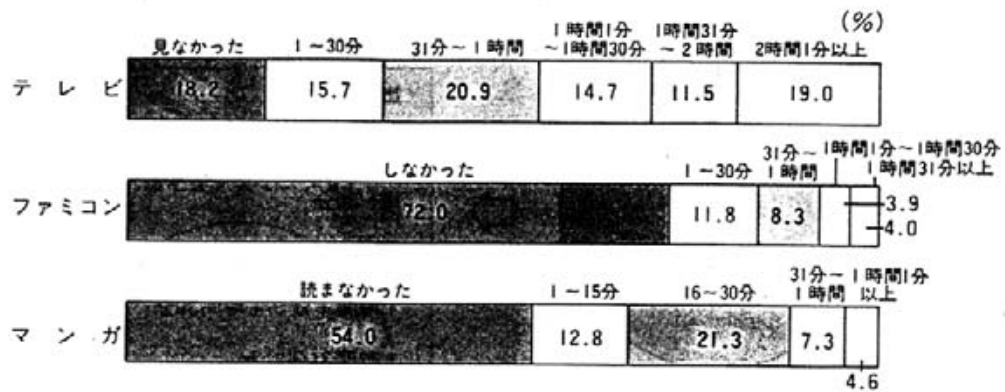
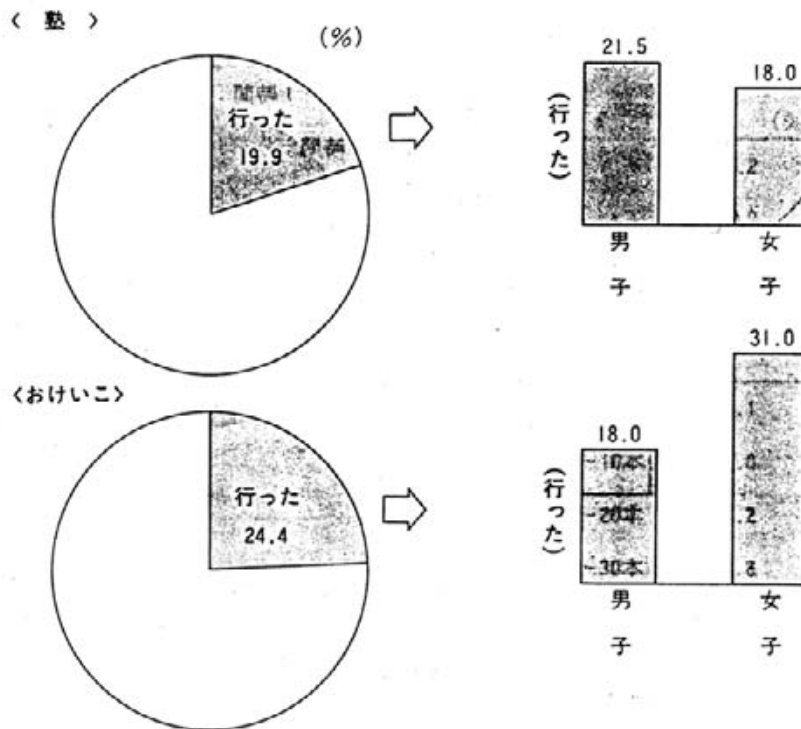


図14 塾やおけいこに行ったか



しした子」が半分。全く「しなかった」子が43%で、やはり男子のほうが少ししか手伝っていない。しかし「手伝った」と言っても、大したことはしなかったことが、オープンアン

サーの欄に書き込みが少ないことでよくわかる。要するに、した子もしなかった子も、大差はなさそうなのだ。

最後に、夕食の状況でしめくりとしよう。

図15 家庭学習をしたか

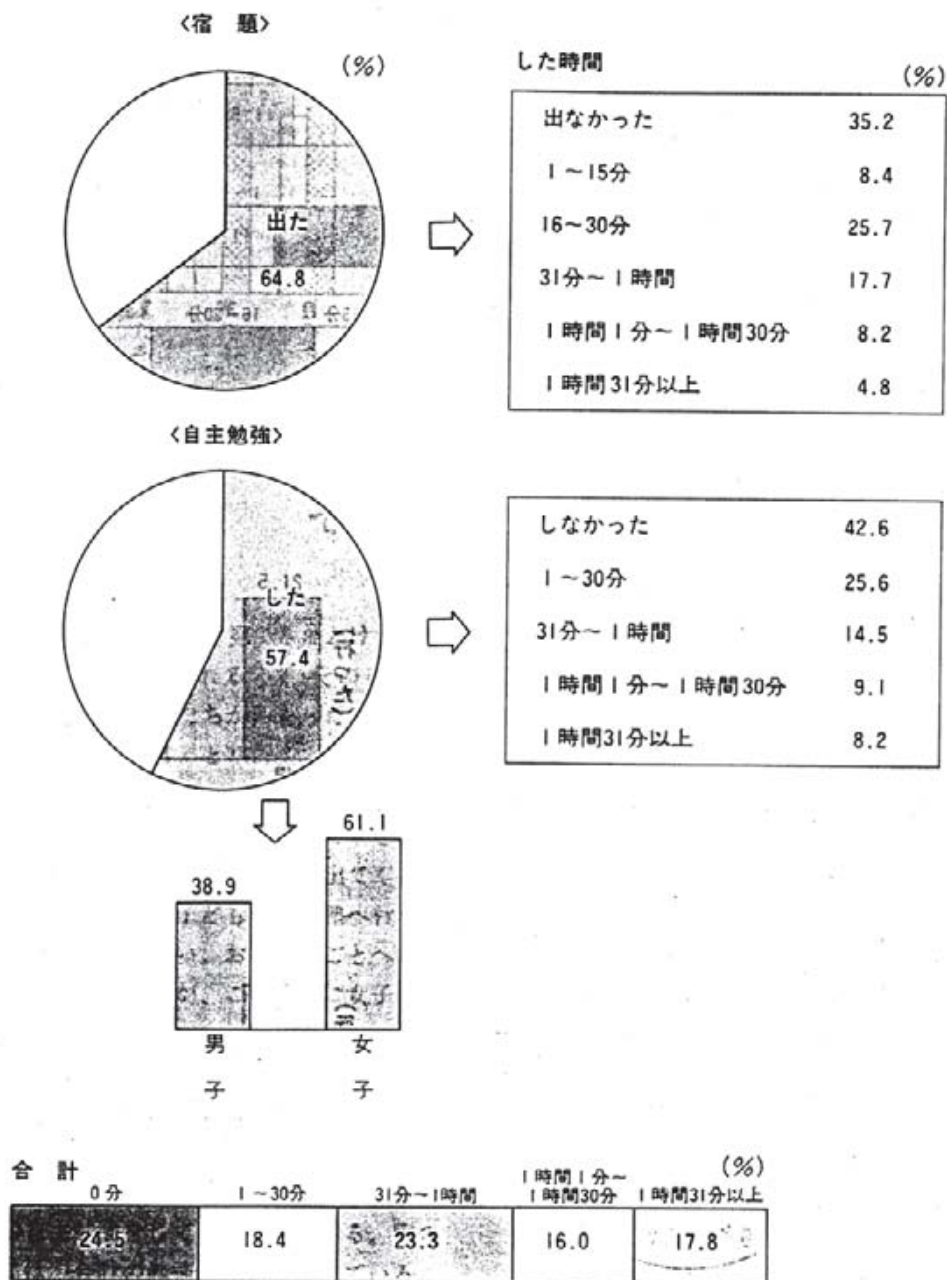
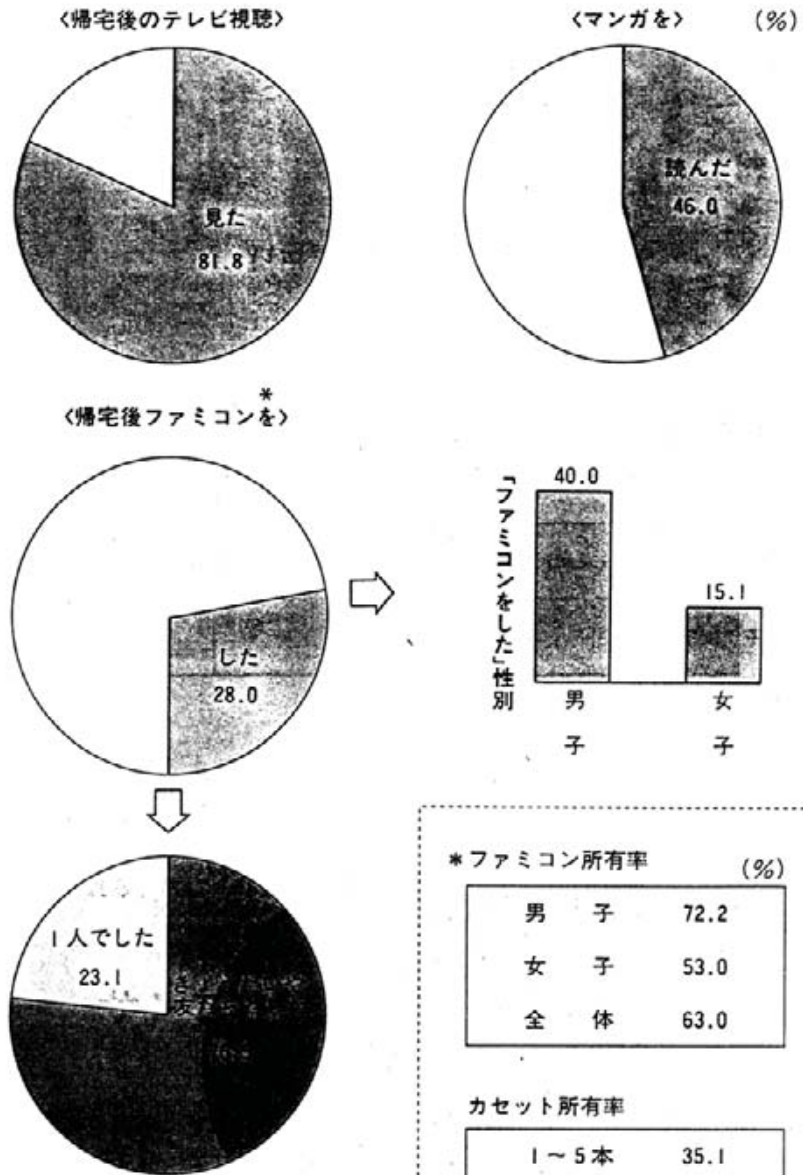


図16 テレビ、ファミコン、マンガ



同席者を図18で見ると、全員がそろって食事したのは3割とさすがに少ないが、父親以外は全員（多分母親と子どもたち）でした家が半数に達している。合わせて8割とは、まあ

まあ数字である。しかしわずかだが、子ども1人もしくは子どもたちだけの夕食も12%ほどある。塾のためか、共働きなどのためか、いずれにせよ、気にかかる数字ではある。

図17 帰宅後の手伝い

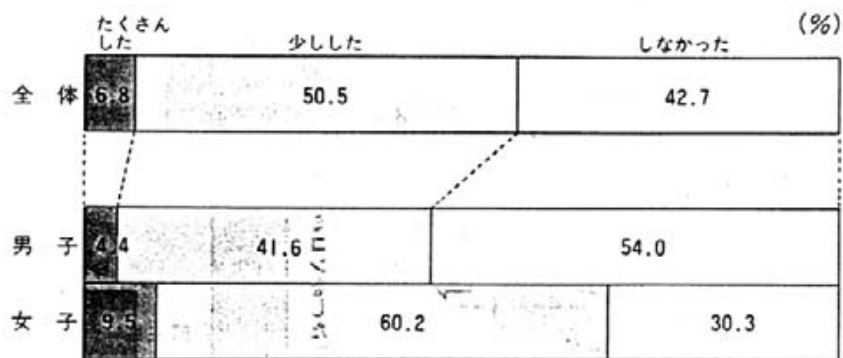
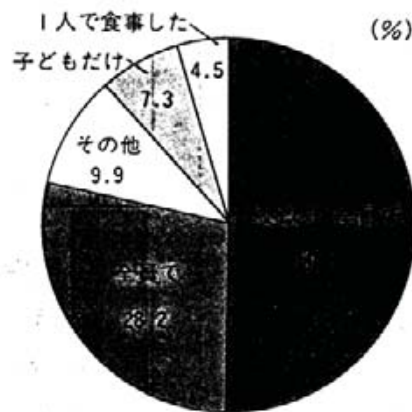


図18 夕食の状況



2. 子どもの放課後



以上、昨日の放課後のようすを見てきたわけだが、たった1日のデータでも子どもたちの放課後の過ごし方が、ある程度浮かび上がってきたように思われる。次に「昨日」を離

れて、もう少し一般的な角度から、子どもの放課後のようすを明らかにし、第1章のデータの一般化が可能かどうかを検討してみたい。

サンプルとなった子どもたち

まず図19は、本調査のサンプルとなった子どもたちの自己評価である。子どもたちが自分をどんな子どもと思っているか、そのいくつかの側面のうち、本調査の目的にそって、とくに友だち関係を中心に見てみることにしよう。

まず「友だちと遊ぶのは」の問いに対して、「とても好き」60%、「わりと好き」24%と、合わせると子どもたちの8割以上が、友だちとの遊びは大好きと答えている。この点についての昔の調査データがないのは残念だが、

おそらく30年前50年前でも、この数字は同じではなかったか。子どもはいつの時代も友だちを求め、友だち遊びが大好きな生きものなのだろう。

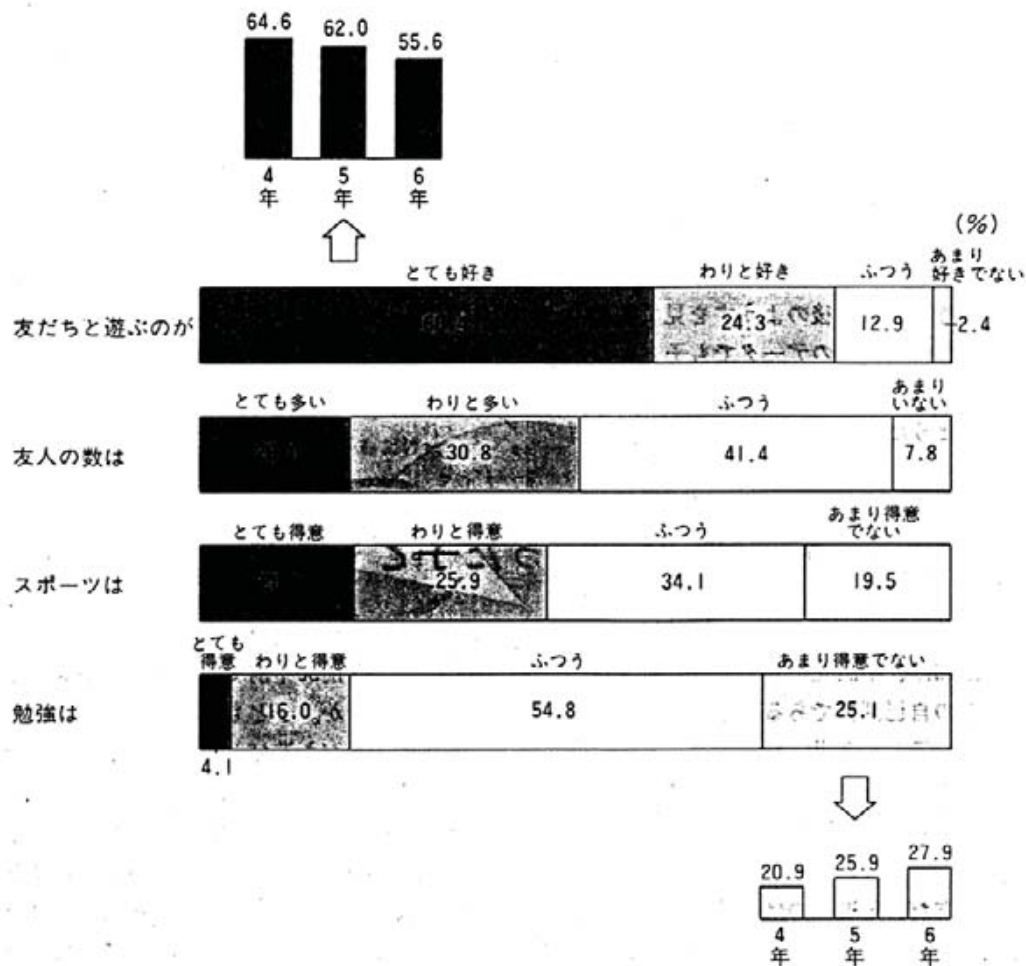
そしてその下、「あなたの友だちの数」をたずねてみると、「あまりいない」はわずか8%。大部分の子が「ふつうかそれ以上にたくさんいる」と答えている。そして「スポーツ」についてもこれまた得意でない者がわずか20%。8割が「ふつうかふつう以上に得意」と答えている。これもまた、われわれをほっ

とさせてくれる子どもらしい姿を語る数値である。

そして最後に、「勉強は得意か」。これだけは、前の3つの項目とかなり違ったようすを示す。前の3つがポジティブな方向への分布の偏りを示していたのに、これだけは、正規分布か、逆にむしろネガティブな方向への偏りを見せる。勉強が(とても・わりとを合わせて)得意な子は20%、ふつうが55%、あまり得意でない子が25%と、わずかながら得意でない子のほうが多い傾向が見られる。

しかもこの傾向は、その下に図示したように、学年を追って、わずかながら一層顕著になっていく。あまり得意でないとする子は4年5年6年と、20.9%、25.9%、27.9%と少しずつふえていく。そして「友だち遊びがとても好き」と答える子は逆にへっていき、学年を追って64.6%、62.0%、55.6%という数値となる。先に見た子どもらしさを示すのびやかな数字の奥に、勉強の重さがしだいに増していく気配を、われわれは敏感に感じとらなければならないだろう。

図19 自己評価



ギャング・エイジについて

ご存知のように、子どもの仲間遊びは小学校の3年生か4年生ごろからしだいに活発化して、いわゆるギャング・エイジを迎える。昔の子どもたちは、地域の中におとなの目にふれない活動の場と自由時間をたくさんもっていたから、子ども(同性)だけの結合度の高いグループ(ギャング=徒党と訳される)を作って、遊びやスポーツ、冒険などをして歩いた。この語を発達心理学で使う場合は、日本でおとなに対して使われるギャングという語(暴力団やピストルなどを持った強盗など)ほどの悪い意味ではなく、むしろ原語の「組・一味」というニュアンスで使われる。しかしなにしろおとなはむろん、友人でもメンバーでない者の介入をも完全に排除するような結束の固いグループであり、かなりの知恵や行動力の発達してくる年齢なので、時にはギャングの名にふさわしい非行集団へと発展することもある。

しかし本来ギャングの形成は、子どもの成

長の節目の中で、おとなの支配や権威に対抗しようとする力が子どもたちの中に生まれてきたことを示す、一種の成長のあかしである。ギャングが地域の中で種々の遊びや活動を展開することは、子どもがおとなの社会の仲間入りをする日のため、その成長準備として、人格や社会性の形成上大きな意味を持つとされている。しかし最近では、子どもたちの仲間意識や人間関係に変化が生じ、かつ放課後の自由時間や遊び場や仲間関係がせばまったため、ギャングがほとんど消失してしまったとも言われている。これで子どもたちが果たして一人前のおとなになれるのか、十分な人格形成ができるのか、と心配する人びとも多い。

このような問題意識もあって、第1章の「昨日」を扱った部分では、友だちとした遊びに焦点を置いたデータ収集が行われたわけだが、第2章でもそれを補足または確認するようなデータからはじめることにしよう。

仲よしグループについて

まず子どもたちに「仲よしグループ」の有無(調査票では、クラスの仲よしグループ……いつもグループでよく遊ぶ仲間、という表現を用いた)をたずねたのが、図20である。あると答えた子が7割で、とくに女子のほうに多くなっている。これまでのデータで、女子は遊びも不活発で、遊び集団のサイズも小さかったので、この数字はやや意外でもある。

そこで表4は、その人数をたずねた結果だが、これによると女子の仲よしグループは、2人グループが男子の2倍近くにもなっており、また7人以上の大グループは男子に23%

もあるのに、女子ではわずか5%という数字である。女子の場合、グループがあるとはいっても、少人数で、とてもグループとは言えないような未熟な集まりが多いとも推測される結果である。

また図21によると、これらのグループには形成されて時間がたっているものも多く、半年かそれ以上前から、66%にも達している。性差も1年以上前からの部分に多少ある(男子24%、女子19%)だけで、他は僅少である。

さてその仲よしグループが、ただの仲よしか、それともギャングの性質を備えたものな

図20 仲よしグループの有無

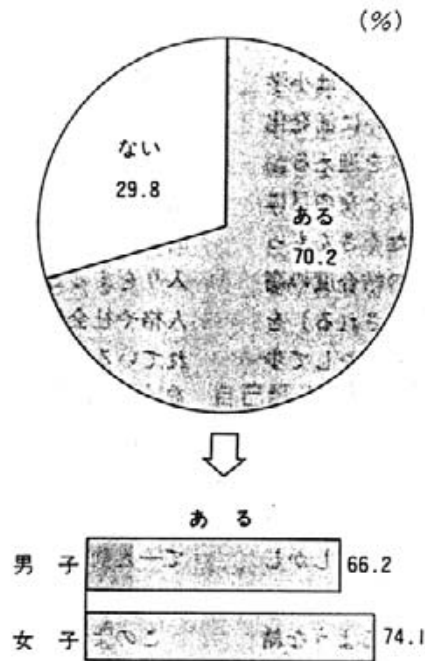


表4 仲よしグループの人数 (本人を含めて)

(%)

人数	性別		
	全体	男子	女子
2人	18.4	12.9	23.2
3人	24.1	23.8	24.3
4人	20.7	16.3	25.0
5人	14.8	15.4	14.2
6人	7.9	8.4	7.5
7人以上	14.1	23.2	5.8

のかを見たのが図22、図23である。

図22は全体の7割の子が持っていると答えた仲よしグループのメンバーと、「放課後も遊ぶか」とたずねた結果である。そのうち「毎日のように遊ぶ」と答えた場合だけが、本来のギャングの資格を持っているとみてもよさ

そうだ。しかし図が示すように、放課後も毎日のように遊ぶと答えているのは、男子の27%、女子の15%（グループのある者についてだけの割合）に過ぎない。

また図23はグループの特徴だが、本来、ギャングは同性だけで、グループ名、入団儀式、

図21 グループの形成された時期

	1ヵ月くらい前から					ごく最近
	1年以上前から	1年くらい前から	半年くらい前から	3ヵ月くらい前	前	
全体	21.2	20.6	24.1	18.0	4.3	11.8
男子	23.9	17.9	24.5	18.0	2.6	13.1
女子	18.5	23.3	23.7	18.0	6.0	10.5

図22 グループと放課後も遊ぶか

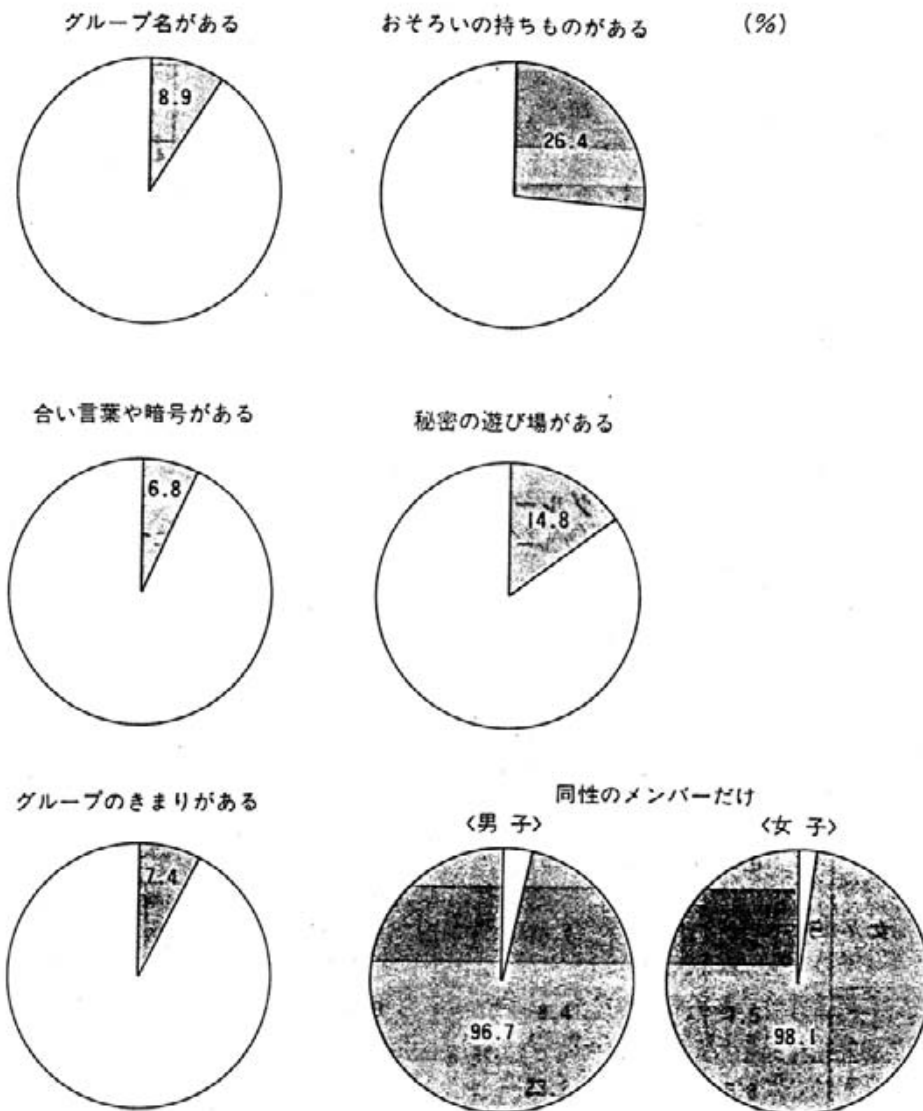
(グループのある者、男子66%、女子74%について)

	毎日のように遊ぶ				ときどき遊ぶ		あまり遊ばない		ほとんど遊ばない	
	遊ぶ		遊ぶ		遊ぶ		遊ぶ		遊ぶ	
全体	21.0	34.2	34.2	55.2	13.8	10.0	13.8	10.0	13.8	10.0
男子	27.0	29.3	29.3	56.3	10.0	6.6	10.0	6.6	10.0	6.6
女子	15.0	39.2	39.2	54.2	17.4	13.3	17.4	13.3	17.4	13.3

暗号や合い言葉、ルール、バッジや共通の持ちもの、秘密の遊び場を持つ、きわめて結束の強いグループとされてきた。その要件を備えているかどうかを見てみると、まずグループ名のあるのはわずか9%、合い言葉や暗号があるグループも7%だけ。グループのル

ールを持っているのも、同じく7%だけ。おそろいの持ちものなどを持っているのはやや多くて26%だが、秘密の遊び場を持つグループも15%でしかない。これではどうていギャングなどと言えるものではなく、ただの仲よしグループに過ぎないと言ってもよさそうだ。

図23 グループの特徴



その具体例を、A小学校の4、5、6年生508人の自由記述部分からまとめて作表したのが、表5①～⑥である。

グループ数は

4年 男子 (82人)	13グループ
4年 女子 (78人)	14グループ
5年 男子 (84人)	9グループ
5年 女子 (75人)	11グループ
6年 男子 (107人)	12グループ
6年 女子 (82人)	14グループ
合計	73グループ

となっており、その中に、

名前のあるグループ	18グループ (24.7%)
暗号や合い言葉のあるグループ	16グループ (21.9%)
きまりのあるグループ	15グループ (20.5%)
共通の持ちもの のあるグループ	61グループ (83.6%)

のような特徴が見い出される。

しかし表5を見ていくと、この73のグループで、ギャングらしい条件を備えているの

は2割かせいぜい3割で、あとはギャングというより単なる仲よしの集まり程度とみたほうがよさそうだと思えてくる。

学年別では、さすが6年生に一番ギャングの雰囲気や条件をもつグループが多く、とくに男子にその印象が強い。また学年や性別によって多少状況が異なっていて、4年生男子には多少ギャングカラーが見られ、5年男子はなぜかファミコンを媒介にしたグループがあり、6年男子は先にも述べたように、いちばんギャング的性質が見い出される。また女子は、4年ではまったく幼稚(単なる仲よしグループ)だがしだいにギャングの雰囲気を持つようになるが、男子に比べると、6年生になってもそのカラーは稀薄である。

このように見てくると、改めて、子どもたちの間に仲間集団の形成能力がおとろえてきている印象を受ける。「昨日」のデータで見えてきたように、子どもが遠出をせず、家の中やその周囲でシコシコと遊んでいる状況と重ね合わせると、その印象は一層鮮明なものとなっていくように思われる。先に見たように、子どもがあんなにも友だちと遊ぶのが好きだと言っているのに、このデータはどうしたことだろう。子どもたちは、本当に仲間遊びの楽しさを知っているのだろうか。

表5 仲よしグループの特徴

— A小学校 —

① 4年男子(82人中)

グループ の人数	グループ名	合い言葉や 暗号	きまり	持ちもの	形成時期
13人	タコイカ軍団	ボンシャマニエ ールコメイチゴ		自分たちで書 いたマンガ	半年
6人	ブーチャン	バーイハドソン	楽しくする	ファミコン	1年以上
3人	3人組	セットが乱れ るぜ		靴下・靴・ズボン	1年
2人	ふじ田				1年
5人			けんかしない	ファミコン・パッ ト・グローブ	3か月
4人	きめん組				1年以上
4人		あそぼ			半年
3人				ファミコン	半年
5人				下じき	最近
5人				ファミコン カセット	1年以上
10人				ファミコン カセット	1年以上
2人			たいたたり、悪 口を言わない		1年
3人				キーホルダー	1年以上

② 4年女子(78人中)

3人		さよならの代りに ジャンケンする	毎朝一緒に 登校する		3か月
10人		10人組	仲間はずしを しない	筆記用具	1年以上
6人				ナウシカの 筆記用具	1年以上
2人				便箋・封筒	1年以上
5人				ナフキンの袋	半年
3人				袋	1年

表5 仲よしグループの特徴

グループ の人数	グループ名	合い言葉や 暗号	さまり	持ちもの	形成時期
4人				消しゴム	半年
3人				シャープペン	1年
4人				シルバニアフ ファミリー	半年
4人				星の消しゴム	1年以上
2人				消しゴム	1年以上
2人				ハンカチ	1年
5人				カンペン	1年
3人				ノート	1年以上

③ 5年男子(84人中)

2人	巨西 ジャイライガー			野球道具	半年
7人	やすごん			ファミコン	半年
6人				ファミコン	半年
3人				ファミコン	1年以上
7人				ファミコン	半年
5人				ファミコン	半年
2人				ファミコン	1年以上
4人				ファミコン	半年
4人			裏切らない	Nゲージ	半年

④ 5年女子(75人中)

4人	あかまき		仲よくする	シャープペン	半年
----	------	--	-------	--------	----

表5 仲よしグループの特徴

グループ の人数	グループ名	合い言葉や 暗号	きまり	持ちもの	形成時期
4人		友情・愛情・ど じょう	交換日記を 忘れない	消しゴム	3か月
2人		ウンチくん、 ハイ		ペン	3か月
6人				キーホルダー	半年
2人				シャープペン えんぴつ・ノート	1か月
2人				小物	1年以上
3人				消しゴム	半年
3人				きんちやく袋	3年
4人			秘密の場所を 教えない		最近
4人				靴	半年
2人				マンガ・本	1か月

⑤ 6年男子(107人中)

7人	日本社会連盟 認定日本社会 資料班	ビヨ	1度やめたら 入れない 話し合いには 必ず出席する	プラスチックの 会員証	1年以上
10人	げりぐそずり ずり	タンコ	ちんこを見せる	オニャンコグ ッズ	1年以上
3人	やみの会	バンボローP5I ちょうまうま スッパスッパ 梅干し		ファミコン	1年以上
9人	TPC		いったんやめ たら入れない	会員証	3か月
9人	サバイバル				1年
6人				テレビゲーム	半年
2人				エグザスの 会員証	半年

表5 仲よしグループの特徴

グループ の人数	グループ名	合い言葉や 暗号	きまり	持ちもの	形成時期
12人				ガンダムの消しゴム	1年以上
5、6人				カメラ	半年
3人				ゲームブック	最近
2人				えんぴつ	1年
2人				ファミコン	1年

⑥ 6年女子(82人中)

6人(7人)	猫			金の葉	1年以上
	べてらんグループ				1か月
3人	クッキングチーム		(秘密にすること)		1年以上
4人	なくのわ*	手で四角を作る (日記の意味)	(言わない)	鈴	1年以上
6人	カボチャ	なきおやおえ			1年以上
2人				シャープペン プレスレット	1年以上
7人		よっ 元気?	交換日記を 他に見せない		1年
3人				小物・服	1年
5人		サーティーワン			3か月
2人		いつもくじけず ガンバガンバ		マスコット・服	1年以上
4人				袋・バッジ	1年以上
				洋服	1年
2人				筆箱・サイフ・ シャープペン	1年
2人				カンペン	1年

* 頭文字か

テレビとファミコン

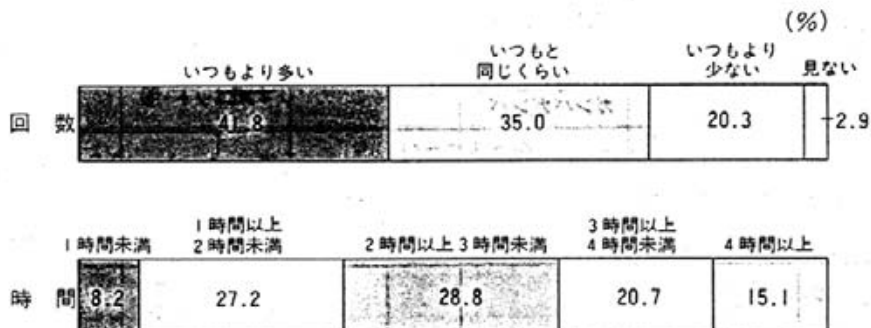
さてここで、テレビとファミコンという最近の子どもたちの2大遊びのようすも見ておく必要があるだろう。まずテレビについては、月曜から金曜まで「毎日必ず見る」子は5割。最近のNHK生活時間調査では、子どものテレビ視聴時間が大幅にへってきた(1985年版、小学5年、1時間47分)ことが指摘されている

が、図24でもその印象を受ける。また図25によれば、土曜日は週のうちいちばんよくテレビを見ており、図26によれば、日曜日は平日よりかえって少なくしか見ていないようすもみられる。むろんこれらはあくまでも、子どもたちの時間感覚で把握された数字に過ぎない。にもかかわらず、意外に客観的な姿に近

図24 平日のテレビ視聴
(月～金曜、家に帰ってから)



図25 土曜日のテレビ視聴



い把握をしているように見うけられる。

また図27は、そうしたテレビ視聴量に子どもが満足しているかどうかを見たものだ。「もっと長く見たい」とする子は、どの日も4割以内で、大部分の子は現在の視聴量にほぼ満足していることがわかる。

また、図28はファミコンの所有率である。全体の6割が本体を持っている。なおファミコンとの関わりの状況は、『モノグラフ・小学生ナウ vol. 7-2』で、より詳細に見ていく予定である。

図26 日曜のテレビ視聴

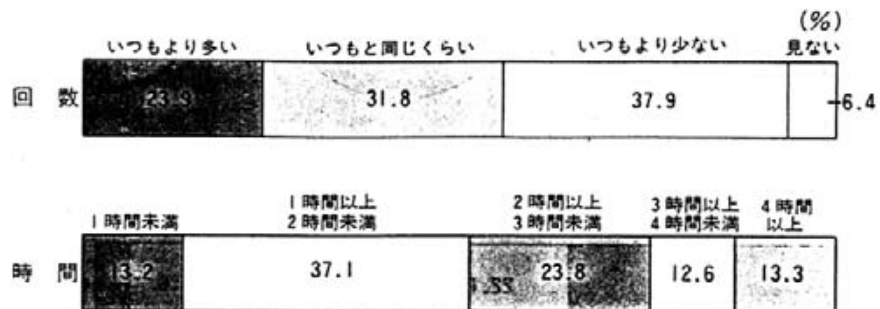
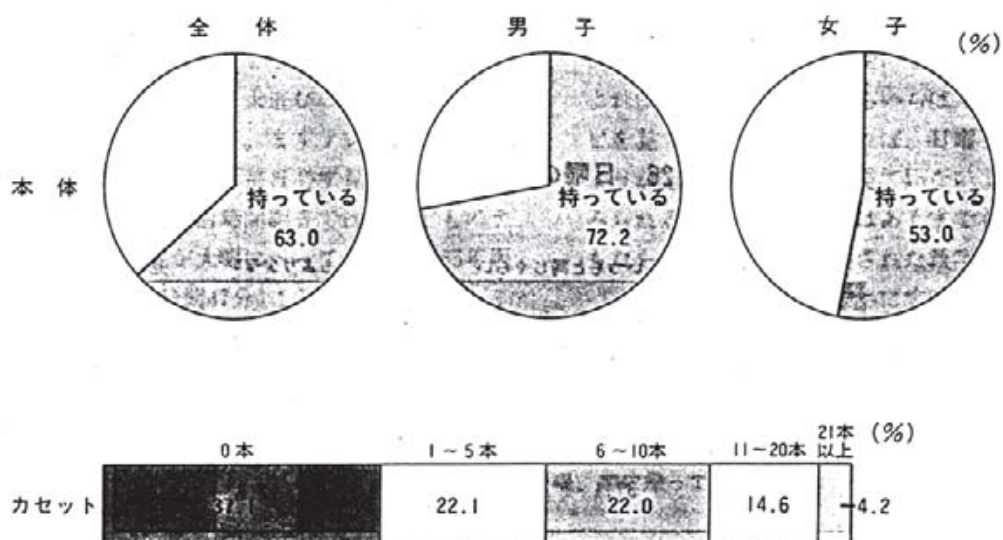


図27 好きなだけテレビを見てよいと言われたら



図28 ファミコンの所有率



勉強との関わり

子どもの遊びの状況を主として仲間との関わりで見えてきたが、最後に、そうした遊びの成立や展開の背景にあるはずの勉強や通塾について明らかにすることで、子どもの放課後のようすをしめくくることにしよう。

まず図29は、塾やおけいごとへ通う回数(通塾率)である。全体としては8割の子が1か所以上に通っており、塾よりおけいごとに通う子のほうが多いこともわかる。また、週のほとんど毎日通う子も少ないが、ある割合では確実にいることもわかる。

また表6は、けいごとの種類である。コンピューター時代に突入したのに、習字とそろばんが1位と3位につけているのはおもしろい。親たちのパースペクティブのせまきだろうか。さらに図30は、曜日ごとの通塾率である。日曜日も14%の子が何らかの塾に通っている。図31を見ると、まさに子どもの生活

時間の大半が、いかに学校的なものに拘束されているかがわかってくる。

次に図32は、毎日の家庭学習の量である。全体としては1時間から1時間半が3分の2で最も多いが、2時間以上する子も16%はいる。また図の下にあるように、塾などのあった日に、家での勉強を宿題だけにする子は3割に達しない。宿題はむろん、自主勉強もいつもと同じくらいする、という無理をしている子が38%にもぼっているのは痛ましい。なお図33はその内容、図34は宿題の出る程度である。学校の宿題は毎日出る31%、わりと出る37%を合わせると、出るほうが一般的のようだし、塾も「毎日宿題が出る」17%。「わりと出る」10%を合わせると27%。学校や塾に時間をとられた上、こんなに宿題責めにされ、その上先ほど見たように、塾のある日でもふだんに近いか同じくらいの自主勉強をや

る子の姿が少なからず見い出される。ここに、子どもらしい遊びの世界が展開される余地が残されているだろうか。日本の子どもたちの

このような放課後の過ごし方は、心身共に健康でみごとな人間を作ることに役立つはずはないという気がする。

図29 通塾率(けいこごとを含む)



(週に、のべ) (%)

1回	10.3
2回	12.7
3回	10.7
4回	4.5
5回	1.0
6回	0.7
7回以上	0.3



(週に、のべ)

1回	25.5
2回	14.4
3回	11.5
4回	6.9
5回	2.7
6回	2.8
7回以上	2.3

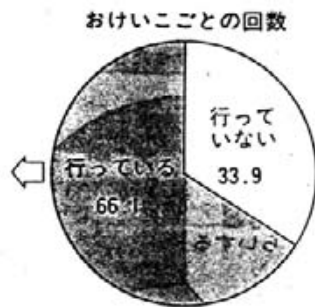


表6 けいこごとの種類

	(%)
習字	25.4
ピアノ・エレクトーン	24.7
そろばん	17.8
水泳	11.2
体操	3.0
絵	1.3
その他(英語が多い)	16.6

図30 塾やおけいこに行っている子

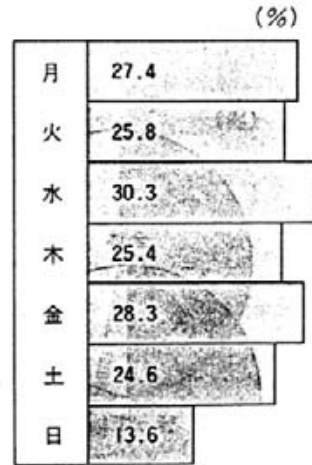


図31 塾などに行かない日(週に)

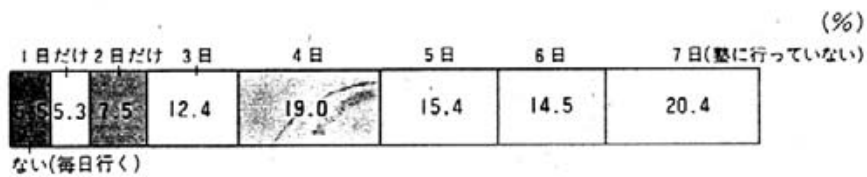
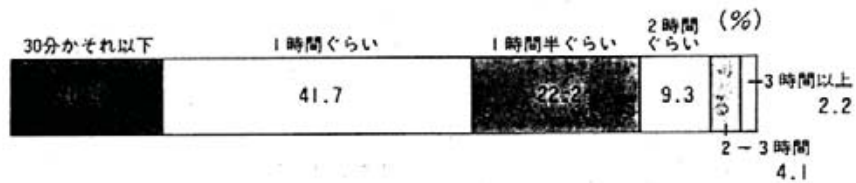


図32 家庭で毎日する勉強量(宿題含む、塾などのない日)



塾やおけいこに行った日の勉強は

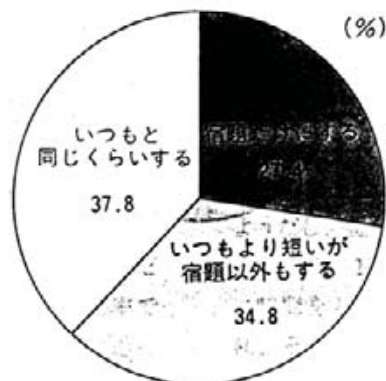


図33 家でする勉強

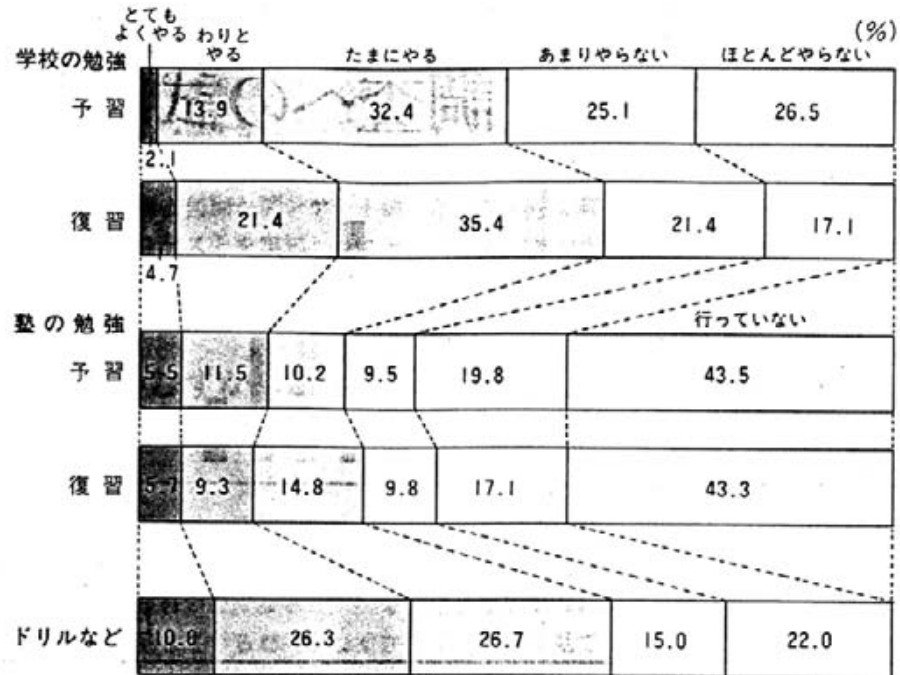
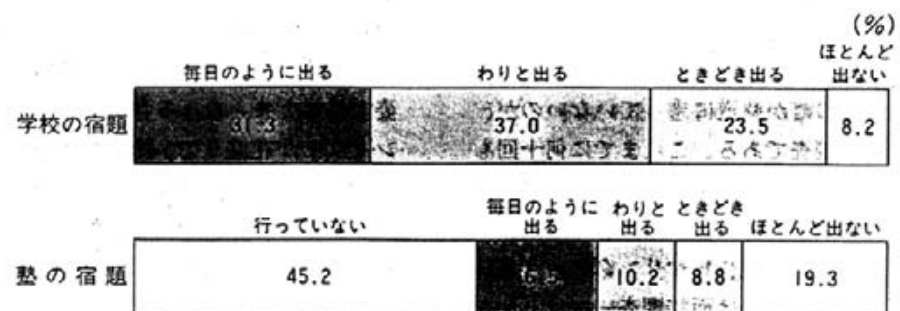


図34 宿題が出るか



※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。